

防災講演会あいち 「関東大震災から100年」

～知って備えよう過去の大災害から学ぶ～

日時

令和5年 12月3日(日)

13:30～16:30 (13時開場)



出典：気象庁（東京駅前の焼け跡、日本橋方面）

プログラム

第1部

「関東大震災の被害・救済・復興に学ぶ：帝都復興事業の跡継ぎは名古屋市か」

講師：武村 雅之 名古屋大学減災連携研究センター 特任教授

第2部

「震災・水災！その時、どうなる？ どうする?! どう備える？」

講師：青山 幸久 愛知県防災安全局防災部防災危機管理課 課長補佐（班長）

場所

鯉城ホール（伏見ライフプラザ5階）

名古屋市中区栄一丁目23番13号

※駐車場はありませんので公共交通機関でご来場ください。



入場無料（事前申込）

手話通訳あり

※先着順で定員（780名）になり次第締切ります。
名古屋地方気象台へ電話またはWEBフォームからお申し込みください。
大雨や地震等により、中止する場合があります。
中止の場合は、名古屋地方気象台ホームページでお知らせします。

申込方法

申込みお問合せ：名古屋地方気象台

• 電話：052-751-5124
(受付：平日9:00～17:00)

• WEBフォーム：2次元コードを
読み込み必要事項を
入力してください。



受付期間：
11月30日までに
お申し込みください。

主催： ① 気象庁 名古屋地方気象台 ② 愛知県 ③ 名古屋市
後援： 地球ウォッチャーズ - 気象友の会 -

講師プロフィールと講演要旨

「関東大震災の被害・救済・復興に学ぶ：帝都復興事業の跡継ぎは名古屋市か」

名古屋大学減災連携研究センター 特任教授
武村 雅之 (たけむら まさゆき)

理学博士。専門は地震学。
東北大学理学部地球物理学科 卒業
東北大学大学院理学研究科博士課程修了(理学博士)
鹿島建設(株)技術研究所入所、同 小堀研究室へ異動
同 小堀研究室プリンシパルリサーチャー、(株)小堀鐸二研究所 副所長
名古屋大学 減災連携研究センター 教授
名古屋大学 減災連携研究センター 客員教授
名古屋大学 減災連携研究センター 特任教授を経て現在に至る。
主な著書「関東大震災がつくった東京－首都直下地震へどう備えるか」
(中公選書、2023)



講演要旨

関東大震災の被害は人的、物的ともに東日本大震災の10倍にのぼる。そのうちの7割が東京市の被害であった。その反省にたつて帝都復興事業が行われた。その成果は現在に至るまで東京の都市基盤を支え続けている。一方、名古屋市の街づくりのルーツも帝都復興事業である。戦後の両都市の歩みを比較しながら関東大震災の復興の意味を考える。

「震災・水災！その時、どうなる？ どうする?! どう備える？」

愛知県防災安全局防災部防災危機管理課 課長補佐(班長)
青山 幸久 (あおやま ゆきひさ)

平成12年4月 愛知県庁入庁(以下、防災関係経歴)
平成21年度～ 兵庫県 企画県民部 防災企画局 防災計画課 (E-ディフェンスを用いた木造校舍耐震振動実験等)
平成23年度～ 愛知県 防災局 災害対策課 (福島第一原発事故を踏まえた県原子力防災計画の策定)
平成26年度 内閣府(防災担当) 地方・訓練担当 (全国10箇所の「津波・地震防災訓練」の企画立案・運営)
平成27年度～ 愛知県 防災局 災害対策課 (熊本地震の課題を踏まえた災害物流体制の構築)
平成29年度 熊本県 知事公室 危機管理防災課 (自主防災活動支援及び市町村BCP見直し・受援体制整備支援)
平成30年度～ 愛知県 防災安全局 災害対策課
令和2年度～ 愛知県 防災安全局 新型コロナ特措法対策チーム
令和4年度～ 愛知県 防災安全局 防災危機管理課
主な成果物「地域防災活動支援プログラム」・「熊本県受援マニュアルモデル」



講演要旨

東日本大震災以降、講師が現場などで見聞きしてきた、行政をはじめ、被災地はどうだったか、どうしたのか、そして、役に立った備えは？を、実際のエピソードを交えながら参加者に疑似体験していただき、この地域の「その時」に向け、「後悔先に立たず」から、今できることを考える。